

PTA あきた



2014.7.18 No.125

【発行】秋田県PTA連合会
【事務局】秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター内
TEL(018)864-8975 FAX(018)824-7935
E-mail: pta-akita@helen.ocn.ne.jp
http://www.pta-akita.com



～みんなで育てる 秋田の子ども～



合川北小学校(北秋田市)

大川小学校(五城目町)

小野小学校(湯沢市)

ごあいさつ

会員のみなさまにおかれましては、本会の活動に対し日ごろより、多大なるご理解とご協力をいただき、心から感謝を申し上げます。

さて、今年度に入ってからにわかに、わが国の教育改革のニュースが新聞紙上ににぎわっています。教育委員会制度をはじめとし、幼保・小中、高校・大学と、現行のいわゆる「6334」制度を改革し、「543」、あるいは「444」など一律ではなく、各自治体が独自の判断で、柔軟に決められるようにするべきといった議論や、小中一貫校推進のために学年区分は地域で判断することを可能にし、さらに5歳児の義務教育の前倒しなど、ドラスティックな提言がなされております。その一方で、少子化は加速度的に進み、本県においても出生率が全国で最下位と歯止めがかかっていません。

このことは、地域の担い手の不足やいびつな人口構成となることが考えられ憂慮すべきことなのですが、事はすぐ目の前に迫っているのです。

今後、さらに活発な議論が行われ、様々な分野で改革や見直しなどが行われていくものと思われませんが、国や地方自治体の財政状況は決してよいとはいえない現状で、次代を担う子どもたちの教育にどのように予算を振り向けていくべきなのか国や自治体は保護者の意見にもぜひ耳を傾けていただきたいものです。教育制度については、大いに議論し、国民

が納得した上で改革していただくのが最良の策です。わが国の今後の行く先を決定づけるような重要な事柄だけにより慎重に進めていただきたいと思います。

保護者は、わが子を思って日々生活し、子育てを懸命にしておりますが、残念ながら教育はできません。教育は、すべての児童生徒が平等に受ける権利を持っています。国や地方自治体の責任において、確実に次世代につながる子どもたちの教育を行っていただくことが大前提です。そのために、私たちPTAも日々勉強し、教育環境を整える努力をする必要があると思いますし、会員各位におかれましてはどうぞ子どもたちが健全に育ち、大きな夢をもって成長することができますようご支援をお願い申し上げます。

今年の秋田県大会はにかほ市での開催となります。にかほ市PTA連合会の皆様におかれましては、準備等々で大変ご難儀をおかけしますが、宜しく願いたします。むすびに、『愛してやまない子どもたちのために』、一つになって、活発なPTA活動をするを、皆さんとともに改めてお誓い申し上げるとともに、みなさまのご健勝とご活躍を祈念し、挨拶にかえさせていただきます。



秋田県PTA連合会
会長 加藤 寿一

平成26年7月吉日

平成26年度

定期総会開催

平成26年6月7日(土)パークホテルにおいて、本年度の定期総会が開催され、平成25年度決算及び平成26年度事業計画、予算並びに平成27年4月からのPTA連合会とPTA安全互助会の統合について承認されました。同時に平成26年度役員体制も次のとおりに決定しました。3名の新副会長をご紹介します。なお、同日、平成26年度秋田県PTA連合会会長表彰が催されましたので、併せてご紹介します。

思いを一途に・・・

秋田県PTA連合会 副会長 畠山 耕 [能代市山本郡PTA連合会会長]



12年程前に先輩から声を掛けられ、PTA活動をより踏み込んだ視点から関わるようになりました。親として、子どもたちの成長のために、何をし成長を支援していけばいいのだろうと思っていた自分に、多くの人たちとの関わりを通じてPTA活動をしていく中で、自分自身が成長していかなければならないことを気付かせてもらいました。子どもたちの学校・地域生活の充実から、いじめ対策やインターネットトラブル防止、犯罪防止に災害復興への支援etc…。昔とは違った環境の中で生活が展開される現代の子どもたちの時代に、旧式の自分が対応していけるのかに自信がなく、傍観的な姿勢に陥ってしまった時もありましたが、PTA活動で同じ想いをしている親や先生方・地域のサポーター、“今だからやらなければ”との熱き想いを抱いた同士に出会い、たくさんの勇気の源を頂くことが出来ての今です。

“すべては輝く瞳のために”の想い一途に！ みなさんの想いは子どもたちを守る最後の砦 永遠に不滅です!!

地域との連携

秋田県PTA連合会副会長 菊地 政明 [潟上市南秋田郡PTA連合会会長]



五城目町立五城目小学校は、今年度創立140周年を迎えました。歴史と伝統のある本校は、かつて1,000人以上の児童数を抱えるマンモス校でした。それが、時代の流れといえますか今年度は、290人と300人を切る中規模校になってしまいました。少子高齢化の波にどっぷり浸かっています。でも世の中の流れには甘える事はできません。今だからこそPTAの結束力が試される時と思います。保護者、教職員、地域住民が一体となりPTA+C(地域社会)=PTC Aの組織作りも市町村単位で取り組んでいかねばならないと思います。

2040年問題が現実化しないよう、子どもたちの将来が明るく夢の持てる市町村、学校作りのお手伝いをしていかなければならないと思っています。今後は、自分の子どもだけに一生懸命になる事はもちろんですが、学校運営や市町村の取り組みにも参加して五城目小学校が、未来永劫受け継がれるよう、又、統合して閉校となった学校の諸先輩たちが培ってきた歴史、文化、伝統をPTA会員一人一人の意識改革によりこれからは、守って行く事が重要になってくると思います。

土の力

秋田県PTA連合会副会長 佐藤 学 [横手市PTA連合会会長]



私は保健師という仕事をしています。そして、8年前よりひきこもりの若者たちと共に社会参加に向けた活動をしています。彼らは長い間家にひきこもり、人や自然とのふれあいを避けているうちに、生きている感覚が鈍くなっているような気がします。おいしい、うれしい、楽しい。皆さんのご家庭では、このような言葉を口にしていますか。2年前から、若者たちは農家さんでお仕事を始めています。広大な大地に照り付ける太陽。そこに色白で細腕の若者が仕事をしている光景を見ると涙が出そうになります。仕事の様子を見守りに行くと、「土って冷たくて、気持ちいいですね。」「軽トラの荷台はジェットコースターより楽しいです。」「すべてが新鮮で、生きていることを体感できる農業の力の奥深さに驚く毎日です。おいしい、うれしい、楽しいという言葉が飛び交う家庭でありたいです。

平成26年度 秋田県PTA連合会・秋田県PTA安全互助会 役員一覧

会長	加藤 寿一	秋田/勝平中P	委員	村瀬 克広	仙北/角館小P
副会長	畠山 耕一	能代山本/東雲中P	同	佐々木 一典	美郷/千畑小P
同	野崎 一明	秋田/勝平中P	同	佐藤 克彦	湯沢雄勝/須川小P
同	菊地 政明	潟上南秋田/五城目小P	幹事	米村 修一	かづの/花輪第一中P
参与	佐藤 学	横手/横手北中P	同	齋藤 研太	大館北秋田/上川沿小P
同	大藤 進	県小学校長会長/外旭川小	同	塚和歌子	能代山本/能代南中P
同	大三 正弘	県中学校長会長/土崎中	同	米谷 幸江	潟上南秋田/東湖小P
同	戸松 郁子	能代山本/能代東中P	同	夏井 智行	男鹿/船川第一小P
同	佐藤 純	由利本荘/鳥海小P	同	古井 秀行	秋田/外旭川中P
同	下藤 哲司	美郷/美郷中P	同	鈴木 勉	由利本荘/岩城小P
同	榎木 良和	かづの/大湯小P	同	齋藤 聡	にかほ/平沢小P
同	石垣 博隆	大館北秋田/上川沿小P	同	鈴木 直人	大仙/大曲西中
同	岩谷 淳志	男鹿/男鹿東中P	同	西村 建夫	仙北/角館小
同	福田 淳	由利本荘/西目中P	同	高橋 建寿	美郷/美郷中P
同	石澤 美沙子	にかほ/象潟中P	同	久米 一	横手/境町小P
同	山崎 精輝	大仙/大曲西中P	同	武田 正俊	湯沢雄勝/仙道小P

おめでとうございます 平成26年度 秋田県PTA連合会 表彰一覧

(所属名)敬称略

団体

- 鹿角市立草木小学校PTA
- 北秋田市立合川北小学校PTA
- 男鹿市立船川第一小学校PTA
- 由利本荘市立鳥海小学校PTA
- にかほ市立小出小学校PTA
- 仙北市立中川小学校PTA
- 美郷町立六郷小学校PTA
- 横手市立山内小学校PTA
- 東成瀬村立東成瀬中学校PTA

個人

- 米沢 隆彦 (末広小P)
- 佐々木 晃吉 (西館小P)
- 藤嶋 匡祥 (鷹巣東小P)
- 佐藤 幸樹 (東雲中P)
- 館岡 千佳子 (能代第二中P)
- 渡部 隆彦 (五城目小P)
- 杉本 正人 (五里合小P)

- 小森 譲司 (旭川小P)
- 佐藤 寛子 (大住小P)
- 佐藤 真彦 (岩見三内中P)
- 野崎 一 (勝平小P)
- 古井 秀行 (外旭川中P)
- 造酒 圭吾 (秋大附中P)
- 石川 隆志 (本荘北中P)

- 佐々木 孝一 (大内中P)
- 佐々木 恵子 (金浦中P)
- 伊藤 弘己 (大曲西中P)
- 鈴木 学 (角館中P)
- 佐々木 竜孝 (美郷中P)
- 高安 秀人 (前大森小P)
- 伊藤 真一 (須川小P)

国際交流・国内研修事業レポート

平成26年3月26日～29日の4日間に渡って、つくば市において開催された日本PTA全国協議会主催の国際交流・国内研修事業に本県から2名が参加し、全国の中学生と交流・研修し、友情の絆を深めた参加者のレポートです。



『国際交流・国内研修を終えて』

能代第二中学校 鈴木蘭

私は国際交流・国内研修を終えてたくさんのことを経験し、学ぶことができました。そして人生で忘れられない大切な思い出をつくることができました。4日間という短い時間でしたが本当に楽しかったです。

最初は知らない場所で知らない人たちと4日間活動することにとっても不安で緊張しました。でもその不安と緊張がうそのようにすぐなくなりました。9班のみんなと自分の地方の方言や名物を教え合ったり、方言で話していくうちに仲良くなっていきました。初めて会った人と1日という短期間で、こんなに仲良くなれたのは今まで初めてでした。どこかで会った事があるような気がしました。

2日目には大縄跳び大会がありました。見事、9班が44回跳んで優勝することができました。より団結力が高まったと思います。その他にも留学生に日本を紹介するプレゼンテーションや「私たちの夢プロジェクト」という発表がありました。発表ではフレンドシップ賞を受賞しました。みんなで頑張ったからこそとれた賞だと思います!とても嬉しかったです!!

最終日には班のみんなと絶対に夢を叶えて10年後の8月に会おうと約束をしました。それぞれ歩む道は違うけれどどこかで繋がっていると信じて、自分の道を歩んで行きたいです。私は国際交流・国内研修に参加して本当によかったと思います。9班のみんなに出会って自分の人生が変わりました。14年間を生きていてこんなに楽しかった事がないってほど本当に本当に楽しかったです。この国際交流・国内研修で経験したこと、学んだことをこれからの生活で活かして行きたいと思っています。

貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。

県P連事業レポート

平成26年度 小・中学校PTA会長会議から
(平成26年7月5日)

『生きる力』を育てる 学校をめざして

講師：福島大学人間発達文化学類教授
白石 豊 先生



福島大学に勤務して33年になる。私は指導者として体操で全日本優勝3回、2位2回という成績を残したとき、「指示」「命令」「恫喝」の連続で成し遂げ、それが正しいと思っていた。しかし、86歳の恩師に会った時「教育(Education)」の意味は「引き出す」ことであり詰め込むことではない。人はいろいろなものを持っている。それを引き出すのが「Education」だと言われた。それから3年かけて「指示・命令・恫喝」ではない指導法を身につけた。幼少期は転校の繰り返しだったが、大分県で「分かる授業」をしてくれた先生がいて算数が好きになった。「わかって、できておもしろい授業」。育てるコツ、運動するコツなどすべてにコツがある。筑波大の金子明友教授による16個のスキルを上げることで、楽しくおもしろくなる。

教え込む指導から引き出す指導を行うには、「やる気を損ねるコーチング」の逆を行えば良い。フラットな立場でコミュニケーションをするスキルが大切。「怒る」というのは自分の感情が乱れている時の行動。だから「叱る」がいい。自分の感情をコントロールするスキルを身につければ良い。スキルを身につけ、笑顔で子どもを育てよう。

☆16個のスキル：話す、聴く、書く、読む、論理的思考、論証、推論、説明、描写、討論・議論、主張、交渉、説得、発表、分析・解釈、批評の技術。

『日常からの発信 秋田で何を「伝える」か』

講師：秋田大学 副理事(国際担当)兼
危機管理調整役
高橋康弘 先生



県PTA広報誌コンクールで力作に向き合った時、どの広報誌にも温かさを感じた。子どもに対するぬくもり。気を配って編集されているのが伝わってきた。PTAの広報は「子どもたちを支える人が共有するべき情報は何か」と考えることから始まる。そして編集の際に心がけるのは、限られたスペースを最大限に活かすこと。例えば新任の校長や教員の顔写真やプロフィールを紹介する時、気にかかるとは丁寧故のダブリ感。「新任の校長先生紹介」「校長先生新任の挨拶」と言った見出しに「私は4月に校長に着任した〇〇です……」といった原稿が続くと、とたんに間延びした記事になってしまう。重複を避けるだけで、情報量も増え、原稿には緊張感と勢いがつく。

写真も厳選したい。もっとも象徴的な1枚はどれか。たとえ50枚の候補写真があっても、2枚ずつ比べ、そのうちの1枚を選ぶ「勝ち残り戦」をやれば、50枚の中の1枚を選ぶことができる。こんな作業は、わいわいと、楽しみながら進めればよりベストチョイスにつながる。

秋大では企画広報課長にも就いたが、専門用語の世界(だけ)に生きる教員を、「世間」とつなぐことを心がけた。

私自身は千葉県出身で、今は2度目の秋田県民。1度目は朝日新聞秋田総局に2年間勤務した時で、いわば「旅人」。この時に感じた「秋田」を再確認しようと、転職し、今は秋田県民を目指している。秋田弁は時に、外国語のように難しい。けれどそこには、歴史、風土、自然に育まれた言葉の美しさがある。結構幸せなんじゃないかと思う毎日。秋田は「素敵」と感じている。

平成26年度 郡市PTA連合会事務局

かづの 大館北秋田 能代山本 湯上南秋田 男鹿 秋田 由利本荘 にかほ 大仙北郷 美手 横沢雄勝	青澤高若合野打佐々木仙西石瀬佐 山口橋狭田野崎矢々木鈴西村川瀬藤 秀潤誠弘マキ 人子也子一之也人夫樹仁春	大湯小学校 上川沿小学校 東雲中学校 五城目小学校 船川第一小学校 勝平中学校 新山小学校 象潟中学校 大曲西中学校 角館小学校 千畑小学校 横手北中学校 須川小学校
--	---	---

秋田県PTA 安全互助会から

児童・生徒の傷害事故 1,515件

■態様	
スポーツ活動中	493
遊戯中	372
日常生活	250
他スポーツ中	177
自転車事故	134
登下校中	85
PTA行事中	4
(うち交通事故)	26)

■ケガの内容	
骨折	815
捻挫	227
切傷	198
打撲	157
眼・歯等	64
やけど	35
死亡	3
その他	16

PTA会員の傷害事故 33件

■PTA行事	
バレーボール	18
運動会・親子レク	10
奉仕活動	3
野球	2

■ケガの内容	
捻挫	12
骨折	10
腱断裂	3
切傷	3
肉離れ	3
打撲	2

児童・生徒の賠償事故 79件

車の破損	28
眼鏡を壊す	27
ガラスの破損	17
その他の物損	6
人にケガをさせる	1

PTA会員の賠償事故 3件

草刈り機により石が飛びガラスを破損	
野球の練習中ボールによるガラスの破損	
枝切り中、枝が落ち車破損	



保険請求の流れ

- ①事故発生
- ②学級担任へ連絡
- ③事故発生通知書作成
- ④安全互助会へ送付
- ⑤完治後、請求書・申告書作成
- ⑥学校証明印
- ⑦保険会社へ送付
- ⑧保険金の振り込み
- ⑨支払い手続き終了

平成26年度 広報紙コンクール結果 入選校を紹介します。

平成26年5月8日生涯学習センターにおいて、高橋康弘氏(秋田大)森川勝栄氏(県教育委員会)を審査員に迎え、審査した結果次のとおり入選しました。平成26年度総会において表彰し、今年度の全国広報紙コンクール(日本PTA主催)に出品しました。

- 小学校の部**
- 秋田市立旭北小学校PTA「KYOKUHOKU」
 - 秋田市立勝平小学校PTA「かつひら通信」
 - 秋田大学教育文化学部附属小学校PTA「こむらさき」
 - 秋田市立広面小学校PTA「ひろおもて」
 - 潟上市立飯田川小学校PTA「ほぶら」「ふたあら」
 - 五城目町立五城目小学校PTA「すなざわ」

- 中学校の部**
- 秋田市立勝平中学校PTA「松籟」
 - 能代市立能代東中学校PTA「飛翔」
 - 大仙市立大曲中学校PTA「わかたけ」
 - 大仙市立中仙中学校PTA「清流」



山形県PTA母親委員会の秋田県視察

平成26年7月5日山形県PTA連合会母親委員会(新関山形県PTA連合会会長ほか12名)が秋田市立勝平小学校(校長鈴木勇幸)を訪れ、1年生から6年生までの授業参観後、野崎一県PTA連合会副会長や勝平小学校PTAと懇談を深め、秋田の教育実践に強い関心と興味を示しながら帰路につきました。

山形の視察者からは、「午後にも関わらず、子どもたちの授業への集中力がすごい。」「先生方が自信を持っている。勉強しているのが感じられ、保護者も安心できるだろう。」「クラス環境がとてもきれいに整理されている。」等の感想でした。

懇談は家庭学習が大きなテーマでした。秋田の参加者からの「毎日ノートに向かう家庭学習の習慣化」の発言に、山形県の参加者は驚嘆の声を残していました。



日新火災は、ひとりひとりのお客さまとしっかり向きあう「顔のみえるおつきあい」で、お客さまのご期待にお応えしたいと考えています。

お客さまに最も身近で誠実な損保を目指して

秋田県PTA安全互助会補償制度取扱会社
日新火災海上保険株式会社

秋田サービス支店 〒010-0001 秋田市中通4-5-2-4F TEL.018-837-5255